

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103453		
法人名	夕風会		
事業所名	グループホーム 夕なぎの家		
所在地	岡山市 東区 宿毛 745-3		
自己評価作成日	平成26年 2月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成 26 年 3 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会法人夕風会の広い敷地の中に、特別養護老人ホーム、デイケアセンター、ヘルパーステーション、ケアハウス、老人保健施設、道を隔てて宿毛診療所もあり、総合的なケアが受けられます。ケアハウスの4階にある事でとても眺めが良く、小高い丘には桃畑や桜並木、眼下には田園風景が広がります。居室の南は屋上庭園になっており、畑やプランターで季節の野菜や花を育てています。開放的で明るいホーム内で、一人ひとりの思いに寄り添いながら、のんびりゆったり一緒に楽しくをモットーに支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム夕なぎの家は地域の保健・福祉を担う法人の敷地内にあり総合的なケアが受けられます(法令順守と行動規範等の研修がされています)。入居者も元気で仲良く、穏やかな表情をされていました。職員も楽しい声と笑顔を引き出すよう支援し、職員一人ひとりが無理、無駄、斑のないケアと自己研鑽に努めています。家族の信頼を得て、地域からも愛されるよう努力されている様子がうかがわれました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH職員会議や、ISOが近づくと職員全員で確認している。	理念を事務所内に掲示して、日々確認して実践に繋げている。全職員で2月には事業計画案(事業所の使命、サービス計画をどのように行うか等)を話し合い作成されたようです。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夕凧会全体行事、外出、地域ボランティアの協力により交流できている。	地域の方が大勢参加されての夏祭りや山南地区の出前講座、保育園児の訪問、専門学校の実習生の受け入れ等日常的に交流が出来る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括山南支援センターや居宅を通じて、相談や入居対応など行っている。実習生の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の方針である、災害時における地域への貢献のあり方について、運営推進委員会で話し合い地域の方から助言を頂き、研修を行った。	運営推進会議の回数こそ少ないが、地域の方からの助言や意見をサービスに活かしている。来年度は年6回開催を目指しているとのことでした。	運営推進会議の回数増を図り、そこでの意見をサービス向上に活かしていける事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括山南支援センターの職員さんに相談したり、集団指導や苦情解決研修など積極的に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離苑防止の為玄関の施錠のみ行っている。	法令順守と行動規範を掲示しており、職員会議や日々の支援の中で実例を取り上げ、皆で話し合いや意識づけをして身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビや新聞などから情報を得、職員間で話し合っているが、法律などが学ぶ機会があれば参加したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者がいらっしゃる為、学ぶ機会はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて説明し、後で苦情につながらない様に理解、納得していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお手紙などで意見、要望などお願います、と伝えている。あれば真摯に対応している。	手紙や面会時に意見や要望を聞くよう努めている。経済的なことでの話(消耗品)があったときも話し合いをして適切な対応が出来たようである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見が言える雰囲気作りをしている。良い意見や改善は職員会議で決定し実践している。	職員間で話合える雰囲気作りが出来ている。利用者一人ひとりのケアの仕方等についての意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう、給与面や研修など多方面にわたり、配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課などで把握され、職員を育てるシステムが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	H24年以降は、だんだん集まりも少なくなり、今年度は無かった。再開されれば勉強会に参加したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や性格、趣味などを前もって情報収集し、入所後は傾聴、共感に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どういう不安を抱いているかをお聞きし、それが取り除ける様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって、今一番必要な支援が何なのかを見極め、真摯に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が何が出来るか、どう支援すれば出来るかを職員間で話し合い、関わっていける様努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者、家族の思いをくみ取りながら、ケアに活かしていける様努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来訪や、電話に出ることで、馴染みの関係を大切にしている。	家族や友人の来訪、遠方の方には電話をかけたり、実家に行くことや法事に出席、喫茶店へ出かける等して馴染の関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	菜園活動、食事、片づけ、レク、外出など、共同生活を通じて、一人ひとりが孤立することなく、協力し、助け合える様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も、他棟に面会にいたり、家族から近況報告のハガキを頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを引出し、カンファレンスや職員会議で検討し、本人本位の支援が出来る様努めている。	思いや意向を聞き出し、その人らしく生活出来るよう努めている。自分から話されない方には家族の方や日頃の様子、表情で把握するようにしている。食事の希望等はよくあるようです。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や生活環境を把握し、以前の生活と大きく変わる事の無い様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、毎食の残量、介護日誌の送り、会話の内容や表情などから、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医の意見を取り入れ話し合い、現状に即した介護計画を作成するよう努力している。	日常的に支援している職員や家族等からの意見を取り入れ、話し合っって介護計画の作成やモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	わずかな変化の気づきも申し送り、職員間で情報を共有し、ケアに活かしたり介護計画の見直しにつなげたりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のあらゆる状況から生まれるニーズに対して、柔軟かつ丁寧に対応出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や外出など地域資源を活用し、気分転換したり、楽しみが持てる様な支援を心掛けているが、今年度の取り組みにし、より豊かな暮らしの支援に努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、主治医、事業所の良い関係づくりが出来ているが、これからも連絡を密にとり、適切な医療を受けられる様努力する。	歯科、診療内科の往診や他の科は職員が同行受診して、事業所とのよい関係を築き、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアハウス棟の看護師による感染症予防の指導や、職員の健康診断、急な受診時の相談などで、協力体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医から協力病院への情報交換、協力病院の担当医師、看護師から事業所への情報交換、相談と関係づくりが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状を把握した上で、家族、本人の思いを大切にしながら、事業所が出来るところまで看させていただく。そのために家族と十分な話し合いを重ねている。	重度化や週末期に向けての支援は早い段階から家族と話し合いながら支援に取り組んでいる。看取りではないが看取りに近い状態までの支援をしたこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、救命救急研修を行っているが、協力病院や主治医の指導を常に心にとめて、危機管理意識を持つよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夕凧の施設が避難場所となる為、災害時ボランティア研修に参加したり、運営推進委員会で地域の方から助言を頂いたりしている。	年2回の避難訓練や事業所が福祉避難場所に指定されているので、災害時のボランティア研修に参加し、地域の方から助言等をいただき、地域との協力体制を築いている。ハザードマップの掲示もある。	これからも地域と協力体制を築きながら災害対策に取り組み、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけられる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定、説明、説得はせず、笑顔での傾聴共感に努めている。人間の尊厳を守る、法人の理念でもあるので順守する。	「人間の尊厳を守る」という理念を順守し、笑顔での言葉かけやプライバシーを損ねない対応を心がけて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	拒否も含めて表情やしぐさ、会話などから表出される、一人ひとりの思いを尊重した支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の趣味や性格など考慮し、入所以前の暮らしと大きく変わる事の無いように、一人ひとりのペースを大切に支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めの要望に職員が答えたり、好みの洋服に着替えたりなど、その人らしさが出るような支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入れ歯の調整に歯科受診したり、食事の準備や後片付けを一緒にして食事が楽しみなものになる様支援している。	朝、夕の手作り食には菜園でできた季節野菜を利用することもある。後片付けや食事運び等出来る方には手つだいをしてもらい食事が楽しみなものとなるよう支援している。ドライブを兼ねておやつを食べに出かけるときもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや嚥下状態、咀嚼能力、習慣などを考慮し、主治医、看護師、栄養士の助言を入れて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に合わせて、毎食後支援に努めているが、認知症が進んでいる方については、拒否がある時は無理強いせず、臨機応変に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導にて自立に向けた支援に努めている。	排泄は自立されている方もおられるが、2～3時間間隔での声かけや誘導でトイレでの排泄の自立に向けた支援が出来る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に繊維質の物を取り入れたり、運動を行ったり、下剤を服用し、早い段階での排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみな方、拒否の激しい方、心臓に持病があったり高血圧症の方、一人ひとりのタイミングに合わせて、無理強いすることなく楽しみとなる様、柔軟な支援に努めている。	入浴の好きな方には曜日を決めてしまわず、また入浴が嫌いな方にも3日目には出来るだけ入っていただけるよう、個々にそった支援をしている。浴室からの見晴らしも良く、大きな暖房設備がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に、居室で休息をとったり、雑誌をよんだりする自由時間がある。就寝も一人ひとりのペースに合わせて気持ち良く寝られるよう寝具の増減にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の質問には誠意をもって説明し、服用後に変化が見られれば、すぐに主治医に報告し、指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中で、一人ひとりが生活歴や力を生かして、生きがいが喜びが見いだせるような支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域資源を把握して、戸外に2か月に1回外出を行っている。下階や庭の散歩も取り入れ、家族と協力して外泊も行っている。今年度も個人の行きたい所に行く支援を続ける。	季節ごとの外出や家族と一緒に実家に帰ること、天気の良い日には庭にでて、散歩やお茶、食事をする事で気分転換を図る等で戸外に出かけられるよう支援している。	目標達成計画に挙げておられる取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理を行える入居者はおらず、職員が管理しているが、個人の欲しい物など要望には、お答えしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人、友人、親類、いつでもお金は事務所持ちで電話をかけた、受けた、出来ている。暑中見舞い、年賀状も無料で、職員が希望者と一緒に作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的で明るく安全、季節感あふれる空間づくりをし、居心地良く過ごせる様努力している。	共用の空間に観葉植物や花など季節感のある飾り付けがしてあり、丸テーブルやソファなど居心地よく過ごせるような工夫がしてある。台所に立つとよく見渡せるような配置になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居心地の良い場所があったり、独りになれたり、共同の場所で過ごしたりと、思い思いに過ごして頂ける様支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族の意見を取り入れ、安全性を考慮した上で、本人が居心地良く過ごせる様努力している。	居室は本人や家族が相談して使いやすいように家具や飾り付けをして居心地よく過ごせるような工夫をしている。仏壇を祭られている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり、大きなトイレの目印、浴槽の滑り止めマット、など安全で自立した生活が送れる様工夫している。		